

令和3年度 岡山県立備前緑陽高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日時：令和3年10月28日（木）15:00～17:00 場所：岡山県立備前緑陽高等学校 工業基礎実習室

出席者：17名

1 開会・校長挨拶

2 中間期までの取組について

- ・具体的な学校経営目標・計画 中間期達成状況の報告
- ・びぜんのまち活性化プロジェクト推進室より

3 「グラデュエーション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」について

・育てたい生徒像について、コロナ禍もあるが「協働」「コミュニケーション力」が触れられていない。経団連への調査でも、新入生に求めるものの1位はずっとコミュニケーション力。「協働性」について重視してほしい。

・大きな変更は難しいかもしれないが、「協働性」というフレーズが入るだけでもずいぶん変わる。協働性のベースはコミュニケーション。コミュニケーションという言葉が入れられなければ、協働性という言葉で集約できるのでは。

4 学校紹介の内容について

5 グループ協議「備前緑陽高校の魅力とPR方法について」

・活発な意見交換ができた。本校の魅力としては幅広い選択科目があること、多様な進路選択、地域でのボランティア、あいさつがよくできる、習熟度別授業を実施している等。PR方法については、YouTubeへの動画投稿を生徒にやってもらう、インスタグラムのおすすめ欄に出るよう投稿する等。

・本校の魅力としては、備前焼、窯業のまち、また窯があるのは大きな武器。系列があって選択科目が多い。総合学科であり進路変更もしやすい等。PR方法では、バス通学のアピールや地域とのつながりを増やす。また就職コースを新設して、就職に対する道筋を示すのもアピールのひとつになるのではないか。備前市とのコラボ、SNS、インスタグラムの活用。オープンスクールでの保護者のボランティアスタッフとしての参加等。

・全国大会出場の部活動をしっかりアピールすべき。駅から近いことも魅力。備前市・片上のまちの魅力もアピールできるのではないか。また総合学科とはどういう学科なのか知らしめる必要がある。提案の方法として、YouTube等もいいが、見られない人のための新しい方策を考えることが必要。生徒目線のパンフレット作成。既存にとらわれず、備前市の広報で全市民にDVDを配布してもいい。クーラーの設定温度を下げたり、トイレをきれいにするなど生徒の希望を叶える学校だということも魅力になる。

・吉永中学校では半分くらいの生徒が、備前緑陽がどこにあるのか全然知らない。片上のことが意識にない。生活基盤がそもそも違う。市から県立高校がなくなるのは大変な痛手。備前市では南北で地区がバラバラになっている。そういうことをしっかり認識しないといけない。市民のみなさんにもバスを活用して、行き来をしてもらう。みんなで作る備前市にしていきたい。

6 閉会